

【第1部】

社会安全・警察学研究所所長あいさつ

田村正博

社会安全・警察学研究所 所長
京都産業大学法学部 客員教授

本日は、当研究所の設立1周年記念シンポジウムに、ご来賓の方々、ご講演者、話題提供者の方々をはじめ多くの皆さまにおいでいただき、誠にありがとうございました。特に、遠路アメリカからおいでいただきましたカーリーチェック先生、台湾からおいでいただきました陳先生には、心から御礼を申し上げます。

私からは、当研究所の活動と本シンポジウムに関して少しお話をさせていただきたいと思いましたが、時間の関係もご置きます。皆さまのお手元に、本日のプログラムなどを掲載した資料冊子をお配りしております。そのプログラムの後に、「京都産業大学社会安全・警察学研究所設立1周年記念シンポジウム開催にあたって」と題する書面を付けてご置きます。後ほどご覧いただければと存じます。

現在、私どもとしては京都市教育委員会と学校の方々のご協力をいただきまして、複数の中学校や小学校での調査活動を行っております。そのほかにも、さまざまな調査研究活動を致しております。

そして、もう一つ大変大きな仕事として、通常はなかなか同席することのない、さまざまな立場の人たちが共に出会える場所をつくるということをモットーに致しております、このシンポジウムも、その一つでございます。

昨年は、「子どもの非行防止と立ち直り支援—社会の安全のための研究と実務の協働—」と題したシンポジウムを開催致しました。今年は3月に「社会の安全のための警察と市民の間の情報循環」と題する、ミニシンポジウムを開催致しました。そして本日、このシンポジウムを開催しているわけでございます。

また、12月にはアメリカから研究者をお招き致しまして、講演会を開催予定でございます。さらに来年1月には、子どもの非行防止のための各地の先進的な取り組みを語り合う場を提供したいと存じております。そのようなさまざまな出会いの場をつくりたいと思っております。

本日のシンポジウムは、設立1周年を記念しまして、今回は学問的な研究の分野を中心に企画を致しました。「現代社会と少年非行対策の新潮流」をテーマに、内外の研究者の方々のご講演を行う第1部。そして第2部では、ネット社会と少年非行についてのワークショップを予定しております。

皆さまにとって本シンポジウムが有意義なものであることを心から祈っております。本日は誠にありがとうございました。

